

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-274326
(43)Date of publication of application : 22.10.1993

(51)Int.Cl. G06F 15/24
G06F 15/40

(21)Application number : 04-066914

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 25.03.1992

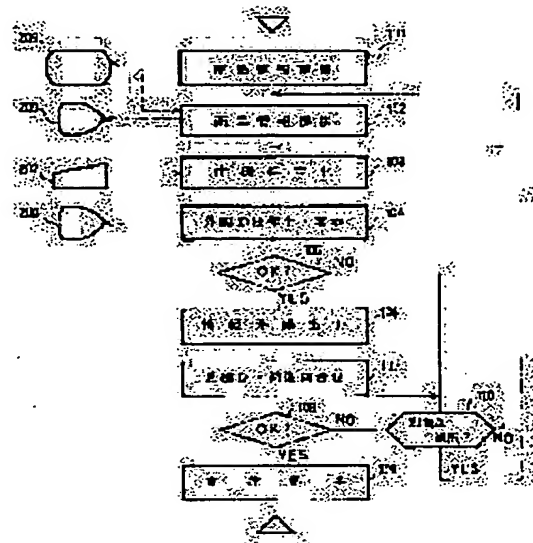
(72)Inventor : MIYAOKA SHINICHIRO
NOMI MAKOTO
KATO MAKOTO
OGIWARA YUJI

(54) METHOD FOR PRESENTATION OF COMMODITY AND DEVICE THEREFOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To consistently support sales business by a computer system by providing effectively information related to various commodities, supporting visually to customize the commodities, and relating its result to regular sales business.

CONSTITUTION: Catalogue information of commodities is accumulated (101) electronically as a form of multi-media information of a text, a graphics, a still picture, an animated picture, a sound, etc., commodity information is provided (102) interactively in accordance with a retrieval request, and with regard to a selected commodity, specifications of a color, a pattern, option parts, etc., are specified (103) interactively its external appearance is visualized and displayed (104), and with regard to a customized commodity, its presentation is attained by executing an external output (106) of the information, an estimate and an inquiry (107) about the time of delivery, an order receiving processing (109), etc.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(11)特許出願公開番号

(43)公開日 平成5年(1993)10月22日

技術表示箇所

8724-5L

Z 7060-5L

審査請求 未請求 請求項の数10 (全12頁)

[最終頁に続く](#)

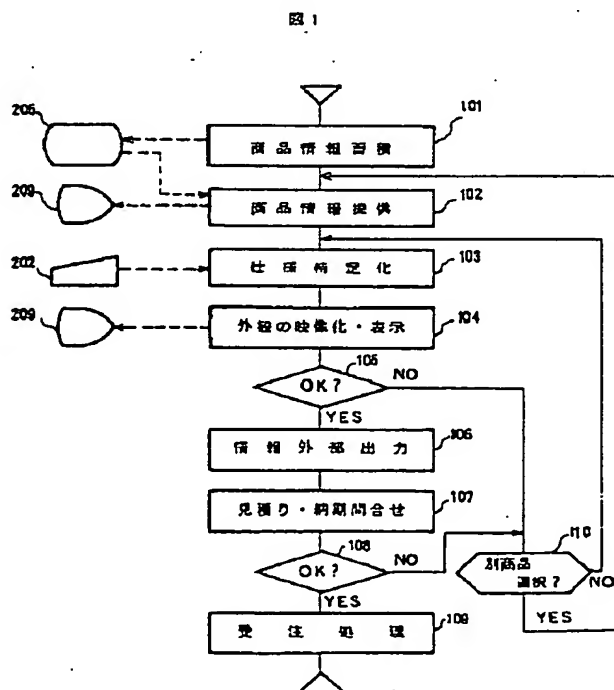
(54) 【発明の名称】 商品プレゼンテーション方法及び装置

(57) 【要約】

【目的】本発明は、計算機システムを利用して商品の販売を支援する方法及び装置に関し、特に商品のプレゼンテーション及び、商品の色や柄などのカスタマイズを一貫して支援する方法及び装置に関する。

【構成】上記目的は、商品のカタログ情報をテキスト、グラフィックス、静止画、動画、音声などのマルチメディア情報の形態に電子化して蓄積し(101)、検索要求に応じて対話的に商品情報を提供し(102)、選択された商品について色や柄、オプション部品などの仕様を対話的に特定化し(103)、その外観を映像化して表示し(104)、カスタマイズされた商品に関し情報の外部出力(106)、見積り、納期問い合わせ(107)、受注処理(109)などを行うことにより達成される。

【効果】多種多様な商品に関する情報を効果的に提供し、商品をカスタマイズするのをビジュアルに支援し、その結果を通常の販売業務に関連付けることにより、計算機システムにより一貫して販売業務を支援することが可能となる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 計算機システム上で、商品のカタログ情報をテキスト、グラフィクス、静止画、動画、音声の少なくとも何れか一つを含むマルチメディア情報の形態に電子化して蓄積し、選択された仕様を特定化した該商品に関して情報の外部出力、見積、納期問い合わせ、受注処理の少なくとも何れか一つを行うことを特徴とする商品プレゼンテーション方法。

【請求項 2】 前記商品に関する情報の提供は、キーワードによる検索方法、あるいはディスプレイに表示された情報を直接指示することによって関連情報を引き出す検索方法の何れかの方法により行う請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 3】 前記仕様の特定化は、商品の色、柄、オプション部品の少なくとも何れか一つの項目に関し、該項目のバリエーションに対応するメニューを提示し、該メニューの中から 1 つを選択することにより行う請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 4】 前記仕様の特定化は、選択された色、オプション部品などの組合せが、事前に設定された組合せ整合条件に合致するかチェックする処理を有する請求項 1 または 3 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 5】 前記仕様を特定化したときの外観の映像化は、あらかじめスキャナあるいはカメラから商品画像を入力し、デジタル画像処理によって商品の色変更、柄変更、オプション部品変更のいずれかを行う請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 6】 前記仕様を特定化したときの外観の映像化は、仕様を特定した商品の画像を背景画像に埋込合成して映像化する請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 7】 前記仕様を特定化したときの外観の映像化は、商品の CAD データを利用してグラフィクス処理によって行う請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 8】 前記仕様を特定化した商品に関する情報の外部出力は、該商品の画像を含む情報をプリンタ用紙のような静的記録媒体、VTR のような映像記録媒体の少なくとも何れか一方に出力する請求項 1 の商品プレゼンテーション方法。

【請求項 9】 商品のカタログ情報をテキスト、グラフィクス、静止画、動画、音声の少なくとも何れか一つを含むマルチメディア情報の形態に電子化して編集する手段と、編集された該商品情報を蓄積する手段と、検索要求に応じて対話的に該商品情報を検索して提供し、選択された商品について対話的に仕様を特定化し、仕様を特定化したときの外観を映像化して表示する手段と、仕様を特定化した該商品に関して情報の外部出力を行う手段と、仕様を特定化した該商品に関し見積、納期問い合わせ、受注処理の少なくとも何れか一つを行う手段を有することを特徴とする商品プレゼンテーション装置。

【請求項 10】 デジタル画像処理により、物体の色変

更、部品変更、背景合成を行うシステムにおいて、物体画像を保持するデータ領域 A と背景合成画像を保持するデータ領域 B を備え、色変更あるいは部品変更を行った物体画像を領域 A に保持し、領域 A に保持された物体画像に対し背景合成を行い領域 B に保持することにより、色変更あるいは部品変更した物体画像の背景合成、及び背景合成画像中での色又は部品変更を行うことを特徴とするプレゼンテーション方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【産業上の利用分野】 本発明は、計算機システムを利用した商品のプレゼンテーション方法及び装置に関し、特に自動車や住宅系設備など大型耐久消費材を、マルチメディア情報を利用して対話的に紹介し、選択された商品に対し色やオプション部品などの仕様をカスタマイズするのに好適な方法及び装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】 近年の消費者のニーズの多様化、製造・販売の一体化を背景として、店頭やショールームで、計算機システムを利用し、消費者が商品を選択したりあるいはデザインするのを支援するシステムが登場している。

【 0 0 0 3 】 日経 CG、1988 年 11 月号、p159-162 に記載のシステム(以下、A と呼ぶ)では、ベッドの色柄を多種登録しておき、顧客の要望に沿って取捨選択し、完成ベッドのイメージをディスプレイ上に表示する。

【 0 0 0 4 】 また、電気学会論文誌 D 分冊、平成 3 年 12 月号、p1015-1022 (以下、B と呼ぶ)には、写真画像をデジタル化して、画像合成などの方法により、室内のインテリアイメージを作成するシステムが記されている。このシステムでは、まずユーザが、作成しようとするインテリアの概念的イメージを表現するキーワードを、メニューの中から指定する。イメージ検索部は指定されたキーワードに適合するインテリア写真を、イメージデータベースの中から複数枚検索しユーザに示す。ユーザは、提示された写真の中から最も自分の概念的イメージに近いものを選択する。イメージモデル作成部は、イメージデータベースに保持されている個々の物体画像を、あらかじめ入力されている部屋構造データに合わせてマッピングし、選択された写真の印象に近いインテリアイメージを作成表示する。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来技術 A は、多種多様な商品系列を効果的に紹介する情報提供の方法について触れていない。また、色、柄、オプション部品などの仕様を特定化したときの商品の価格の見積り、納期の問い合わせ、受注処理といった通常の販売業務との関連についても触れていない。

【 0 0 0 6 】 また、上記従来技術 B についても、イメージ作成の方法については述べられているものの、効果的

な商品情報の提供の方法、通常の販売業務との連携については触れられていない。

【 0 0 0 7 】本発明の目的は、計算機システムを利用し、商品の販売を一貫して支援する方法及び装置を提供することである。

【 0 0 0 8 】このためには、まず多種多様な商品に関する情報を効果的に提供する方法が必要である。これに関しては、本出願人より、マルチメディア情報を利用して対話的にプレゼンテーションを行う方法として、特開平 2-144672号公報の内容を出願している。

【 0 0 0 9 】また、選択された商品に対し、色や柄のバリエーション、オプション部品のバリエーションの中から所望のものを選択し、カスタマイズされた商品の外観を映像化して提示する機能が望まれる。このうち、画像中の物体(商品)の色変更を行い映像化して提示する方法に関しては、本出願人より、特開平 3-41570号公報の内容を出願している。また、柄を変更したりオプション部品を装着したときの様子を、映像化して提示する方法については、本出願人より、特願平 03-279263を出願している。また、カスタマイズした商品の使用環境との調和を見るため、背景画像に埋込合成する機能が望まれるが、これに関しては、本出願人より、特願平 02-330712を出願している。

【 0 0 1 0 】商品の販売を一貫して支援するためには、上記の機能だけでは不十分であり、さらに見積、納期間い合わせなどの通常の販売業務と、連携をとることが必要となる。

【 0 0 1 1 】

【課題を解決するための手段】上記目的は、商品のカタログ情報をテキスト、グラフィクス、静止画、動画、音声などのマルチメディア情報の形態で電子化して蓄積し、検索要求に応じて対話的に商品情報を提供し、選択された商品について対話的に仕様を特定化し、仕様を特定化したときの外観を映像化して表示し、仕様を特定化した該商品に関して情報の外部出力、見積、納期間い合わせ、受注処理などを行うことにより達成される。

【 0 0 1 2 】また、上記商品情報の提供は、具体的には、キーワードによる検索方法、あるいはディスプレイに表示された情報を直接指示して関連情報を引き出す検索方法によって達成される。

【 0 0 1 3 】また、上記仕様の特定化は、具体的には、商品の色、柄、オプション部品などに関し、当該項目のバリエーションに対応するメニューを提示し、該メニューの中から1つを選択する方法によって達成される。

【 0 0 1 4 】また、上記仕様の特定化は、選択された色、オプション部品などの組合せが、事前に設定された組み合わせ整合条件に合致するかチェックする処理を有することによって、より信頼度高く達成される。

【 0 0 1 5 】また、上記仕様を特定化したときの外観の映像化は、具体的には、あらかじめスキャナあるいはカ

メラから商品画像を入力し、デジタル画像処理によって商品の色変更、柄変更、オプション部品の変更などを行うことにより達成される。また、上記仕様を特定化したときの外観を、使用環境との調和まで分かるように映像化するという課題は、仕様を特定化した商品の画像を背景画像に埋込合成して映像化することによって達成される。

【 0 0 1 6 】また、上記仕様を特定化したときの外観の映像化は、具体的には、商品の CAD データを利用しグラフィックス処理により行うことにより達成される。

【 0 0 1 7 】また、上記仕様を特定化した商品に関する情報の外部出力は、具体的には、当該商品の画像を含む情報を、プリンタ用紙のような静的記録媒体、VTR のような映像記録媒体に出力することによって達成される。

【 0 0 1 8 】

【作用】マルチメディア情報を利用した対話的な商品情報提供機能によって、多種多様な商品を、動きを伴った形で(動画利用)、リアルに(高精細静止画利用)、またスペック等を厳密に(テキスト、数値利用)、消費者の興味に従って(対話的)紹介することが出来る。所望の商品仕様が分かっている場合はキーワード検索により、また商品イメージ自体を固めていきたい場合は、ディスプレイに表示された情報を直接指示して関連情報を引き出す方法(ハイパーテキスト、ハイパーメディア)によって、必要な商品情報を得ることが出来る。

【 0 0 1 9 】この結果、消費者によって1つの商品が選択されるが、その商品に、色、柄、オプション部品などのバリエーションが有る場合、消費者がメニューを選択して、色、柄、オプションなどをカスタマイズする。また、その時の外観を映像化して提示することにより、カスタマイズされた商品のイメージを的確に伝えることが出来る。外観の映像化では、スキャナなどから入力された商品の画像をベースに、デジタル画像処理によって、商品の色変更、柄変更、オプション部品変更等を行う。又、商品の CAD データが利用できる場合は、グラフィックス処理によって上記の変更を行うこともできる。

【 0 0 2 0 】カスタマイズされた商品に関し、プリンタ、VTR などに商品映像を含む情報を出力すれば、カスタマイズされたカタログを提供できる。

【 0 0 2 1 】さらに、このようにして選択され、カスタマイズされた商品について、計算機システム上で、価格の見積り、納期間い合わせ、受注処理などを行う。

【 0 0 2 2 】以上の方法によって、計算機システム上で、商品の販売を一貫して支援することが可能となる。

【 0 0 2 3 】

【実施例】以下、本発明の一実施例を、図1から図7を参照して説明する。図1は、本発明の商品プレゼンテーション方法の一実施例を示すフローチャートである。このフローチャートは、図2に示す計算機システムにより実

10

20

30

40

50

行される。

【 0 0 2 4 】 まず、図1の処理ステップ101では、図2のキーボード202、スキャナ203、カメラ204などの入力装置から入力された、商品に関するマルチメディア情報を、処理装置201で編集し外部記憶装置205に蓄積する。

【 0 0 2 5 】 図1の処理ステップ102では、図2の外部記憶装置205から商品情報を読み出し、検索要求に応じて図2の表示装置209に表示する。商品情報のうち、動画情報に関しては、デジタル動画の形態で外部記憶装置205に蓄積しても良いし、又レーザーディスクなどのアナログ情報10の形態で動画記憶装置208に蓄積し、スーパーインポーズ装置207を介して表示装置209に表示しても良い。

【 0 0 2 6 】 マルチメディア情報の編集・蓄積（図1、ステップ101）、マルチメディア情報の提供（図1、ステップ102）に関しては、本出願人による特開平2-144672号公報に詳しく記載されている。その要点を、以下で説明する。

【 0 0 2 7 】 図3(a)に、マルチメディア情報を提供する際の画面例を示す。図3のページ301は、表示装置209の1画面に対応している。ページ301は、テキスト302、静止画303、動画304等から構成される。テキスト中には、キーとなる単語の領域305が、また静止画中には特定物体あるいはその一部に対応するキーとなる領域306（この例では自動車のフロント部）が設定されている。以下では、これらを単にキー領域と呼ぶ。

【 0 0 2 8 】 上記キー領域は、図3(b)に示すように、関連情報とリンクされて（対応付けられて）いる。ここで関連情報とは、キー領域中の単語あるいは特定物に関連する（詳しい説明など）情報であり、これ自体がまたマルチメディア情報で構成されている。たとえば図3(b)で、キー領域305は別ページである関連情報307にリンクされ、又、キー領域306は関連情報308にリンクされている。さらに、図3(b)に示すように、関連情報307がまたキー領域309をふくみ、他の関連情報308にリンクされている。以下では、これらを単にキー領域と呼ぶ。

【 0 0 2 9 】 キー領域を、図2のマウス210等のポインティングデバイスでピックアップすることによって、関連情報を外部記憶装置205、動画記憶装置208から読みだし、表示装置209に表示する。これによって、表示装置に表示された情報を直接指示して、関連情報を次々と引き出す検索が可能となる。この情報検索方式を実現する際のデータ構造および検索処理手順については、上述の特開平2-144672号公報に記載が有る。

【 0 0 3 0 】 また、上記商品情報の検索は、従来のキーワードによる条件検索方式によっても実現できる。

【 0 0 3 1 】 以上で、図1の、ステップ102までの説明を終わる。

【 0 0 3 2 】 図1のステップ103では、選択した商品の仕様の特定化を行う。この様子を、商品が自動車である場合を例にとって、図4に従い説明する。図4(a)は、色を

選択するときのメニュー画面である。コマンドメニューから色変更401を選択した後、色メニュー402から好みの色を選択する。また図4(b)には、オプション部品を選択する場合の画面を示す。コマンドメニューから部品変更404を選択したのち、部品メニュー405から好みの部品を選択する。

【 0 0 3 3 】 色や部品のバリエーションが非常に多く、或る商品に対し適用可能なものとそうでないものがある場合、又、組合せによっては適用不可なケースがある場合、事前に組み合わせ整合条件を設定しておき、特定化された仕様が、この条件に合致するか否かチェックする機能をステップ103に追加することにより、より信頼度高く仕様の特定化を行うことが出来る。

【 0 0 3 4 】 図1のステップ104では、ステップ103で仕様を特定化された商品の外観を、映像化して表示する。これを、デジタル画像処理により行う場合の処理手順を、仕様の特定化の部分も含めて、図5のフローチャートに従い以下で説明する。

【 0 0 3 5 】 色変更や部品変更を行う前処理として、商品画像を入力し（図5(a)、ステップ501）、画像から対象物（商品あるいはその一部）を切りだし（ステップ502）、ファイルに登録しておく（ステップ503）必要が有る。例えば、自動車の場合は、図6(b)に示すようにボディー領域611、窓の領域612、ホイールの領域613などが切り出され、領域分離された画像（構造化画像）がファイルに登録される。なお、デジタル画像処理によって、画像中から対象物を切り出す方法については、色情報を利用して切り出す方法として、特開平3-218581号公報の内容を、本出願人より出願している。

【 0 0 3 6 】 図5のステップ505では、商品情報提供のステップで選ばれた商品の画像を、画像構造化ファイル504から検索し、表示する。ステップ506では、図4(a)～(c)の画面に示すコマンドメニューを選択する。

【 0 0 3 7 】 まず、色変更が選択された場合、ステップ507で色メニューから特定の色を選択した後、ステップ510で商品の色変更処理を行う。例えば自動車の場合は、図6(b)に示すボディー領域611に対し色変更処理が施される。陰影やハイライトを自然に保った色変更の方法については、本出願人より、特開平3-41570号公報の内容を出願している。

【 0 0 3 8 】 また、部品変更が選択された場合は、ステップ508で部品を特定し、ステップ511で部品変更の処理を行う。例えば自動車の場合の一例は、ホイールの変更であり、図6(b)のホイール領域613に対し処理を施すことになる。映像上で部品変更を行う方法に関しては、テクスチャマッピングを利用した方法として、本出願人より、特願平03-279263を出願している。

【 0 0 3 9 】 また、背景合成が選択された場合は、ステップ509で背景画像のメニュー（図4(c)、408）から一つの背景画像を選択し、ステップ512で背景合成処理を行

う。この場合は、商品全体(図4(c)、409)を背景画像(図4(c)、410)に埋め込むことになる。背景合成の方法に関しては、本出願人より、特願平02-330712を出願している。

【0040】ステップ513では、ステップ510~512の処理の結果得られる商品の外観を、映像として表示し、ステップ514で終了判定を行う。さらに、仕様を変更してその外観を見たいという要求があった場合は、ステップ506に戻り上記の手順を繰り返す。

【0041】図5のフローチャートの処理において、色や部品を変更した商品を背景画像に合成する、あるいは背景合成された商品に対し色や部品を変更したいという要求も有る。この場合、図5(b)ステップ510の色変更処理は、背景合成画(図4(c))の中での色変更処理、またステップ508の部品変更処理も、背景合成画の中での部品変更処理になる。又、ステップ512の背景合成処理は、色や部品を変更した商品を背景画像の中に合成する処理となる。

【0042】これは、図6(a)に示すようにデータと処理を関連付けることによって実現可能である。図6(a)においてデータ601は商品画像、データ602はマスク画像(図6、(b)に示すような領域分離の結果に対し、別領域に別コードを付与した画像)、データ605は商品画像601に対し色又は部品を変更した画像、データ607は部品画像、データ608は背景画像、データ610は背景合成した画像である。処理604は、商品画像601あるいは色/部品変更画像605に対する色変更処理、また、処理606は、商品画像601あるいは色/部品変更画像605に対する部品合成処理である。又、処理609は、色/部品変更画像605を背景画像608に合成する背景合成処理である。

【0043】図6を参照し、図5のステップ512で、色変更した商品を背景合成する場合の処理について説明する。図6の商品画像601を、マスク画像602を参照しながら、指定色603に色変更し(604)、色変更画像605が得られる。さらに、色変更画像605を背景画像608に合成することにより、色変更した商品の背景合成画像610が得られる。

【0044】同様に図6を参照し、図5のステップ510で、背景合成した画像の中で色変更する場合の処理について説明する。この場合、表示装置には、図4(c)の背景合成画像が表示されているが、処理手順としては、色変更した商品を背景画像に合成するときと同様である。まず、図6(a)で、色変更した画像605を作成し、その後背景合成画像610を作成する。但し、色変更画像605の表示を行わないので、表示上は、背景画像の中で、色変更が行われたように見える。このとき、合成処理を行う領域を、商品画像を含む矩形領域に限定し、処理量を低減する方法が、合成時間の短縮に有効である。

【0045】以上色変更の場合を例にとり、色変更をした商品を背景画像に合成する方法、及び背景合成した画

像の中で色変更する方法について説明したが、部品合成に関しても同じことが、同様の手順で行うことが出来る。

【0046】また、色と部品を独立に扱うのではなく、色を変更しかつ部品を変更した画像を背景画像に合成する、あるいは背景画像に合成された商品の色と部品をもとに変更するといった処理も可能となる。例えば、まず色を変更し、次に部品を変更し、これを背景画像に合成する場合は、以下ようになる。図6(a)において、商品画像601の色を変更し色変更画像605を作成する。次に色変更画像605に対し、部品画像607を参照して部品合成を行い(606)、部品も同時に変更した画像605(色変更画像のデータ領域と同一領域)を作成する。色及び部品を変更した画像605を背景画像608に合成し(609、)背景合成画像610が得られる。

【0047】以上述べた、ステップ104、外観の映像化・表示の処理は、商品のCADデータを利用し、コンピュータグラフィックスのレンダリングの機能により実現することも可能である。

【0048】以上で、図1、ステップ104の説明を終わる。

【0049】次に図1のステップ105では、仕様を特定化した結果に対し、満足か否かの判定を行う。満足であるという指示が入力されれば、ステップ106に進み、満足でない場合は、ステップ110に進む。

【0050】ステップ107では、仕様を特定化した商品に対しその外観映像を含む情報を、図2のプリンタ206などにより外部出力する。これは、表示装置209の画面を、ダウンコンバータ211によってダウンコンバージョンして、ビデオテープレコーダ212に出力することによっても行うことが出来る。これに関しては、本出願人より特開平3-222070号公報の内容を出願している。

【0051】ステップ107では、特定化した仕様を計算機システム内に保持し、これに基づき、仕様を特定化した該商品に対し、見積り、納期間い合わせの処理を行う。見積りおよび納期間い合わせに関しては、従来の販売業務システムで用いられている方法を利用する。

【0052】ステップ108では、見積及び納期間い合わせの結果に満足するか否かを判断する。満足すると入力された場合ステップ109に進み、満足でない場合はステップ110に進む。

【0053】ステップ109では、仕様を特定化した該商品に関し受注処理を行う。受注処理に関しては、従来の販売業務システムで用いられている方法を利用する。

【0054】ステップ110では、別の商品を選択しなおすか否かの判定を行う。別の商品を選択すると入力された場合は、ステップ102に戻り、商品情報の提供のステップから上記手順を繰り返す。また、別の商品を選択しない場合は、ステップ103に戻り、仕様の特定化のステップから上記手順を繰り返す。

【0055】以上で、図1に示した本発明の一実施例の説明を終了する。

【0056】図7には、本発明の一実施例の装置構成図を示す。商品情報編集装置701は、マルチメディア情報の入力機能を備えた計算機システムである。商品情報蓄積装置702は、ハードディスク、CD-ROMなどの外部記憶装置である。プレゼンテーション装置703は、映像、音声出力機能を備えた計算機システムである。外部出力装置704は、映像を含む情報の出力媒体であるプリンタ、ビデオテープレコーダなどである。販売業務処理装置705は見積、納期問い合わせ、受注処理等を行う計算機システムである。

【0057】これらの装置は、以下のように動作する。商品情報編集装置701では、商品情報を編集し、商品情報蓄積装置702に蓄積する(図1のステップ101の処理)。プレゼンテーション装置703は、商品情報蓄積装置702から情報を読みだし、商品情報の提供(図1、ステップ102の処理)、商品の仕様特定化(図1の、ステップ103の処理)、外観の映像化・表示(図1の、ステップ104の処理)を行う。外部出力装置704は、仕様を特定化された商品に関し映像を含む情報を外部出力する(図1、ステップ106の処理)。販売業務処理装置705は、仕様を特定化された該商品に関し、見積り、納期問い合わせ(図1、ステップ107)、受注処理(図1、ステップ109)を行う。

【0058】

【発明の効果】本発明によれば、多種多様な商品をマルチメディア情報を用いて効果的にプレゼンテーションし、色や部品などにバリエーションがある商品に関しては、仕様を特定化したときの外観を映像化して提示し、さらにこれに対し、見積、納期問い合わせ、受注処理などを行うことによって、計算機システムを利用し、一貫して販売業務を支援することが可能となる。

【0059】また、本発明のプレゼンテーション方法によれば、色や部品を変更した商品画像をその使用環境である背景画像に合成して提示する、あるいは、背景合成した画像の中で自由に、商品の色や部品を変更して見ることが出来るので、よりの確に使用環境との調和を見な

がら、商品の色や部品などの仕様をカスタマイズすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すフローチャートである。

【図2】本実施例で利用する計算機システムのブロック図である。

【図3】マルチメディア情報の編集・検索の概念説明図である。

【図4】仕様の特定化の際の選択画面である。

【図5】特定化された仕様にたいする外観の映像化のフローチャートである。

【図6】外観映像化におけるデータと処理の関係の説明図である。

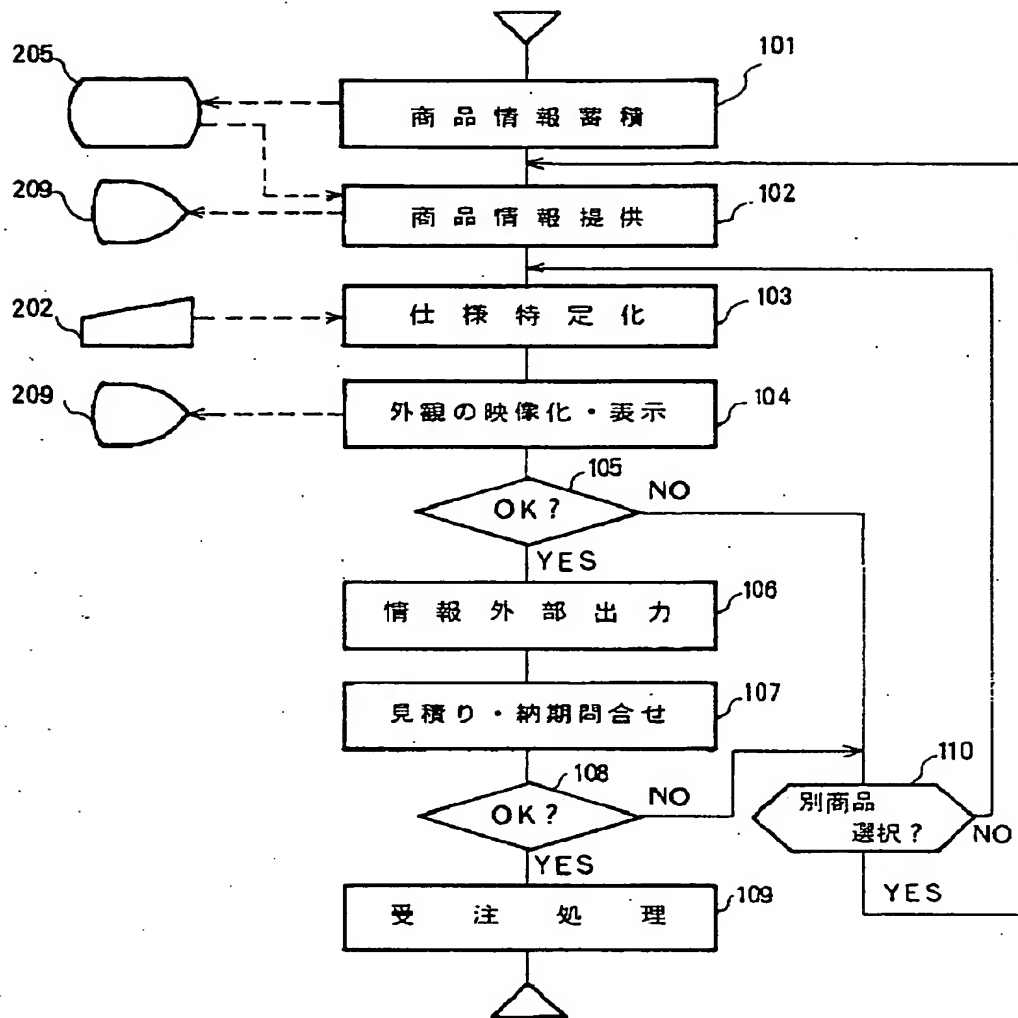
【図7】本発明の一実施例の装置構成図である。

【符号の説明】

101~110…処理ステップ、201…処理装置、202…キーボード、203…イメージスキャナ、204…カメラ、205…外部記憶装置、206…プリンタ、207…スーパーインポーズ装置、208…動画記憶装置、209…表示装置、210…ポインティングデバイス、211…ダウンコンバータ、212…ビデオテープレコーダ、301…ページ(表示装置の1画面に対応)、302…テキスト領域、303…静止画領域、304…動画領域、305…キー領域、306…キー領域、307…キー領域305の関連情報、308…キー領域306の関連情報、401…色変更コマンド、402…色メニュー、403…色変更領域(ボディー部)、404…部品変更コマンド、405…部品メニュー、406…部品変更対象領域(ホイール)、407…背景合成コマンド、408…背景メニュー、409…合成対象物(自動車)、410…背景合成画、501~514…処理ステップ、601…商品画像、602…マスク画像、603…指定色、604…色変更処理、605…色/部品変更画像、606…部品合成処理、607…部品画像、608…背景画像、609…背景合成処理、610…背景合成画像、701…商品情報編集装置、702…商品情報蓄積装置、703…プレゼンテーション装置、704…外部出力装置、705…販売業務処理装置。

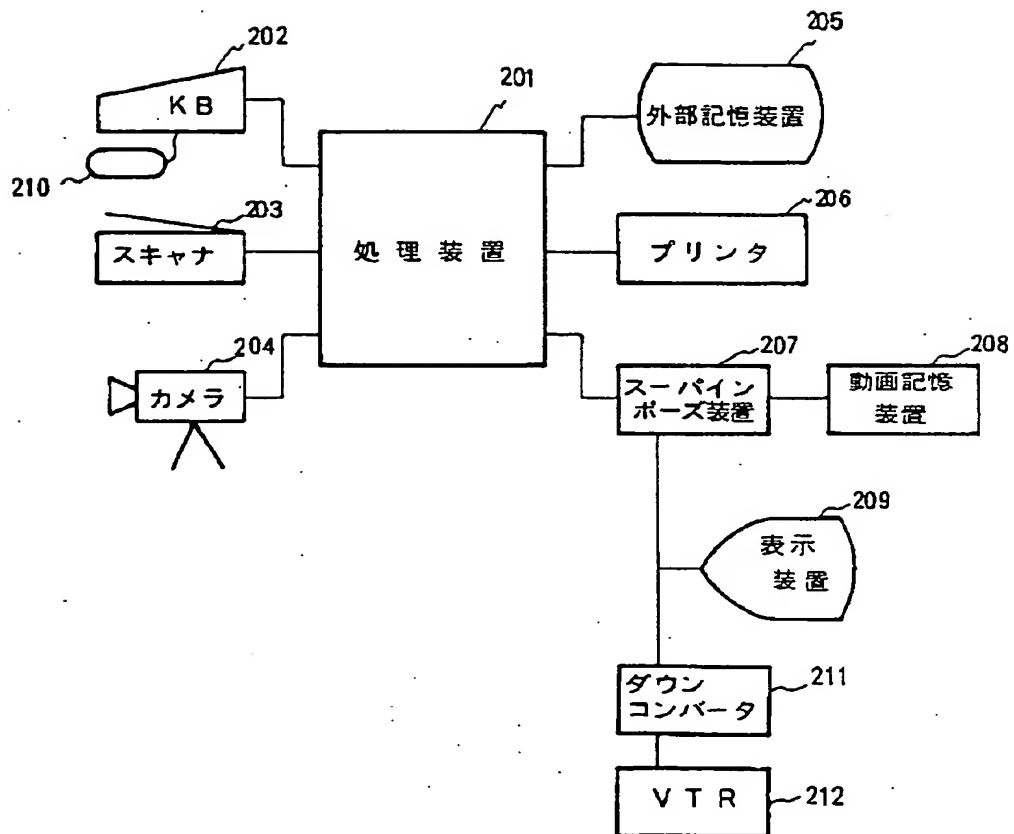
【図 1】

図 1



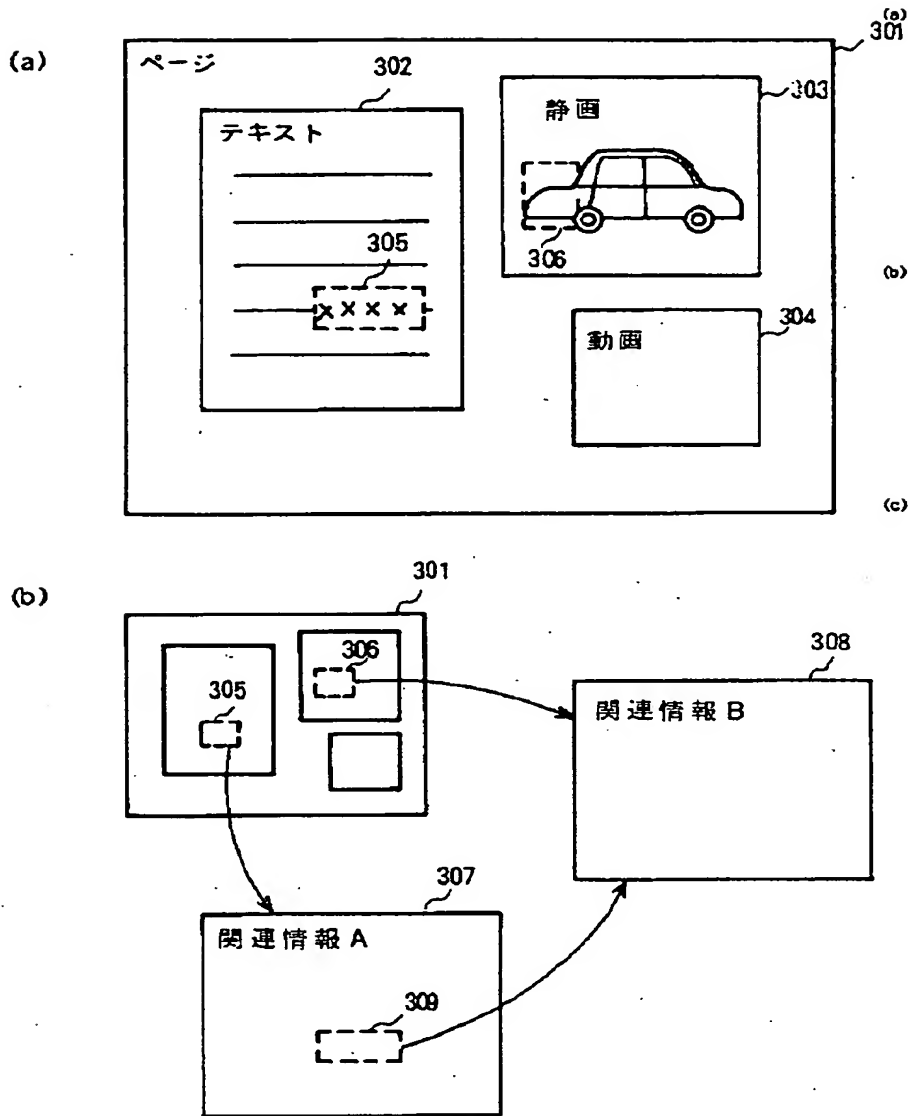
【図 2】

図 2



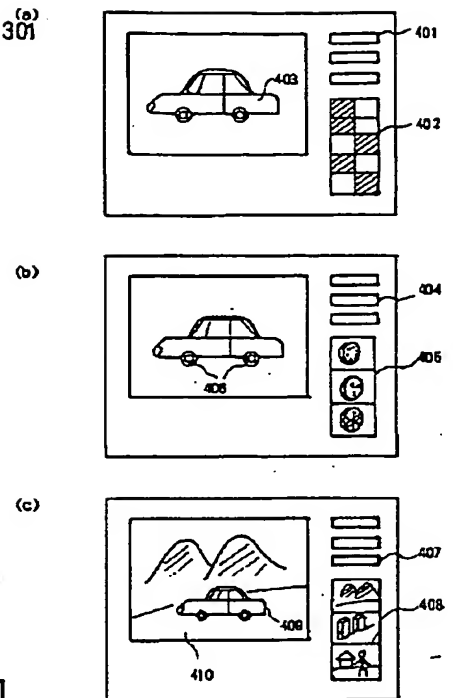
【図 3】

図 3



【図 4】

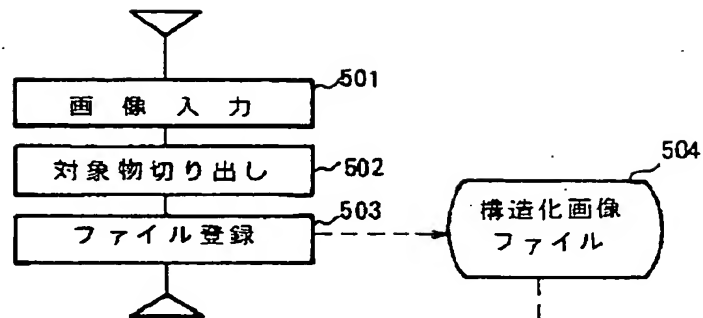
図 4



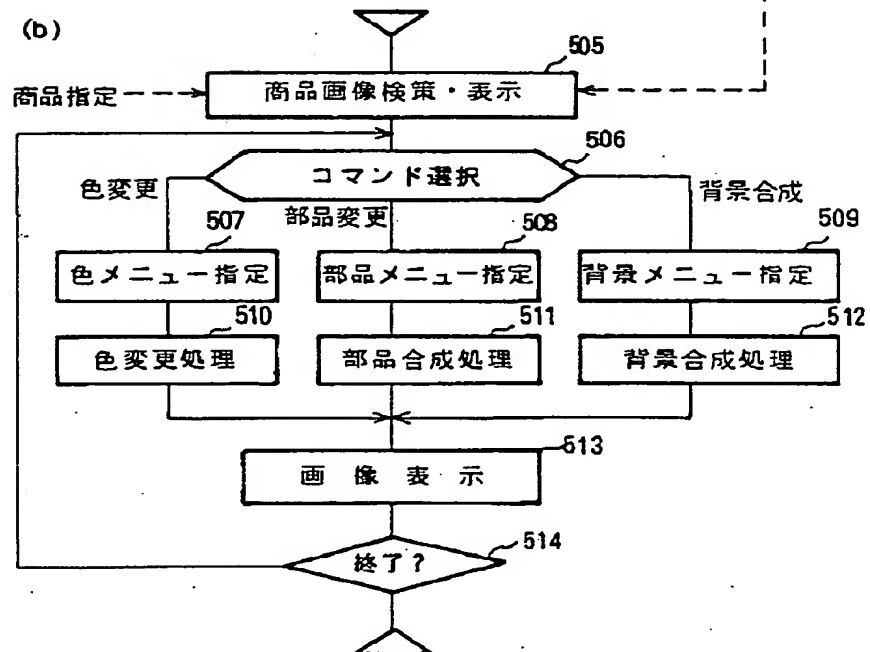
【図 5】

図 5

(a)

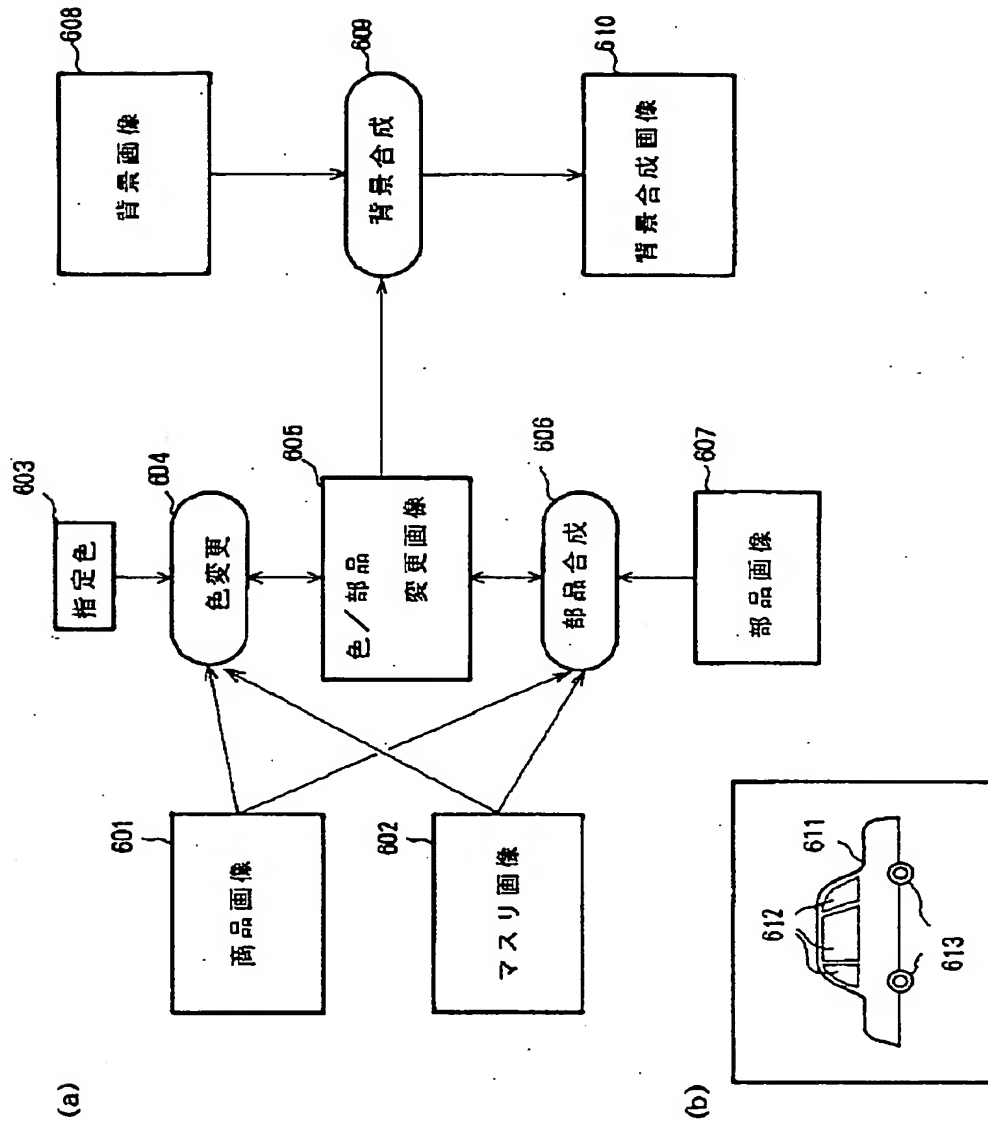


(b)



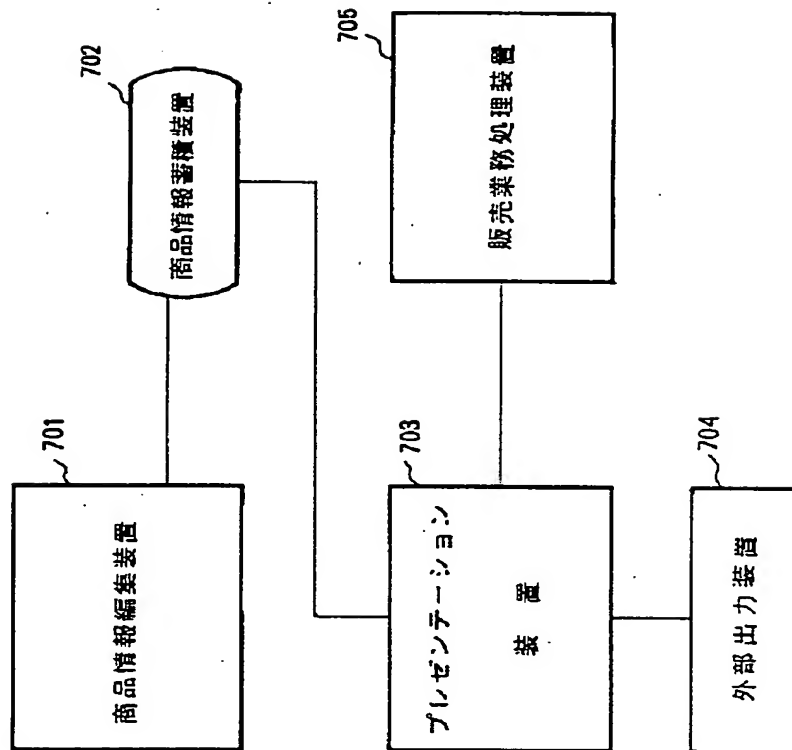
【図 6】

図 6



【図 7】

図 7



フロントページの続き

(72)発明者 加藤 誠
 神奈川県川崎市麻生区王禅寺1099番地
 株式会社日立製作所システム開発研究所
 内

(72)発明者 荻原 雄二
 神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地の1
 2 株式会社日立製作所情報システム開発
 本部門